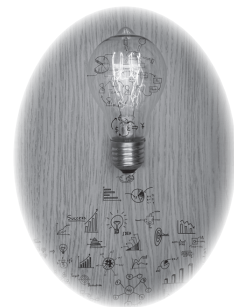


特集：人と組織を変えるワークショップ
——診断士だからできるわくわくイノベーション

第6章 ワークショップ実施のための 参考書籍



林 省吾

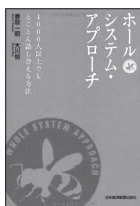
東京都中小企業診断士協会 城南支部ワークショップデザイン研究会

本章では、ワークショップを実施したい場合に参考となる実践的な書籍を紹介します。ワークショップはさまざまな場面で活用できるものですが、唯一の決まった型があるものではありません。多様な問題や課題に対し、適切なプロセスやツールを採用し、柔軟性のあるファシリテーションが求められます。

ワークショップを学ぶには自ら実践することが一番ですが、何も知らない状態では実行することはできません。ツールやプロセスを知り、それを試すことをくり返すことで、自分が気に入る方法が見えてきます。

これから紹介する書籍は、具体的に実行できる方法が解説されている、非常に参考になるものを選択しました。

ホールシステム・アプローチ 1000人以上でもとことん話し合える方法



香取 一昭・大川 恒 著
日本経済新聞出版社
四六判 197頁
本体1,700円+税

ワークショップを利用したいと考える最初の目的は、組織を活性化することではないでしょうか。本書は、組織を活性化するホールシステム・アプローチを構成する4つの方法について、具体的な進め方をわかりやすく解説しています。ま

ず、本書で4つのワークショップを把握し、自分たちの組織に合うものを選択するのがいいかと思います。

ワークショップ・デザイン 知をつむぐ対話の場づくり



堀 公俊・加藤 彰 著
日本経済新聞出版社
A5判 239頁
本体2,000円+税

本書は、企業向けのワークショップの事例が多く掲載され、企業の中で始めようとするときに役立ちます。ワークショップを企画する場合の成功と失敗の例を具体的に用いて、わかりやすく解説しています。

図でわかる！ すぐに役立つ！ ファシリテーターの道具箱



森 時彦・
ファシリテーターの道具研究会 著
ダイヤモンド社
A5判 146頁
本体1,429円+税

ワークショップのファシリテーターに

ついて知りたい方にお勧めの書籍です。ワークショップを実施していると、思ってもみなかった問題に直面します。その場合、さまざまな切り口やツールを知っていると、即興的な対応が可能になります。本書の中で気に入ったツール類を身につけておくと安心です。

ワークショップをつくる 90分でわかるイノベーションを生む場づくり



中西 紹一 著
みくに出版
電子書籍 54頁
本体162円+税

Amazon, その他電子書籍のサイトからダウンロードして購入することができます。内容はとてもわかりやすく、特に新しい商品やサービスのアイデアを考えるワークショップを実施したい場合に最適です。

ベースとして、認知的徒弟制という理論的な背景を伝えながら、具体的な進め方を解説してくれています。アイデアを創出するツール類は世の中に数多く存在しますが、それらを使ってどのような場を作るべきなのか、ワークショップの企画をする場合には押さえておきたい考え方はです。

も、実施する場合の企画の考え方、実施までの準備、実施方法や実施後の処理など、全体のプロセスを知るのに非常に役立ちます。

本書では、ワークショップは創ることで学ぶと考えています。創る過程をワークショップでどのように設計し、実施するのか、理論をもとに解説されています。新しい製品やサービスなどについて、関係者を集めてワークショップを行いたい場合に、基本的な考え方を知る資料として活用できます。

以上、ワークショップを知るための書籍をいくつかご紹介しました。もちろん、これら以外にも多くの書籍が存在します。ただし、ワークショップは一義的な定義が存在しないため、その解説についても多岐にわたります。

本章でご紹介した書籍を参照しながら、自分たちがワークショップを行いたい分野に関連する情報や書籍を集められるのがよいかと思えます。また、自分たちが実施したものと類似するワークショップに参加することも大きな進歩につながります。あとは、できるだけ多くの場を経験し、自分なりのワークショップの型を見出していくことが大切です。

ワークショップデザイン論 創ることで学ぶ



山内 祐平・森 玲奈・
安斎 勇樹 著
慶應義塾大学出版会
A5判 256頁
本体1,800円+税

ワークショップを理論的に捉えながら